

0歳児

担任：西村・藤森・牧野

養護	<p>保護者と密に連絡を取りながら、無理なく安定した生活リズムを整えるようにした。特に、体調面ではこまめに変化を伝えたり、家庭での様子を聞き出すようにした。転園、中途入園が多かったが、在園児が落ち着いて生活出来るような環境に留意するとともに、新入園児に対しては一对一の関わりを十分にもつようにした。</p>
教育	<p>【健康】</p> <ul style="list-style-type: none">・排泄は個々の排尿間隔に合わせてオマル・トイレへ移行していき、排尿したときにはそのことを見せたり言葉で伝えていった。トイレの雰囲気は初めは嫌がる子どももいたが、一对一で関わりながら無理なく少しずつ慣れるようにした。・睡眠は安心して眠れるように関わったり環境を整え、一定時間眠れるようにしていくことで、個々の睡眠リズムを整えるようにした。・着脱は自分でやろうとする意欲を大切にし声を掛けたり介助をして、着脱への意欲をもつようにした。・遊びは移動運動が十分にできるような安全な環境を整え、身体を動かす中で個々の成長発達を促すとともに身体を動かして遊ぶ楽しさを味わえるようにした。また、札落としやブロック、積み木など指先を使う遊びも多く取り入れて行った。 <p>【人間関係】</p> <p>子どもの欲求を受け止め、一人一人との関わりを多く持つことで信頼関係を築いていき、保育者が仲立ちとなって友達との関わりを広げていき、子ども同士が触れ合って遊ぶようにした。</p> <p>【環境】</p> <p>散歩の中で犬や猫、ハト、ポニー、車や草花など周囲の物に興味を持てるように言葉掛けを行うようにした。また、落ち葉や砂、どんぐり、雪など様々な自然物に触れることによって興味を広げるようにした。</p> <p>【言葉】</p> <p>一人一人の指差しや発語など伝えようとしている事を十分に受けとめて、丁寧に応答することで発語への意欲に繋げるようにした。また、生活や遊びの中で問いかけや、やりとりをしたり絵本を見ることで発語を促すようにした。</p> <p>【表現】</p> <p>手遊びや歌、体操を多く取り入れることによって、音楽に触れたり模倣する場を多く作り、リズムによって身体を動かす楽しさが味わえるようにした。</p>

食 育	個々の状態に合わせてながら、栄養士と家庭と連携して授乳、離乳食を無理なく進めるようにした。言葉掛けや介助をする中で少しずついろいろな食材に慣れるようにし、手づかみやスプーン・フォークを使って自分で食べようとする気持ちを大切に育てるようにした。
--------	---

1 歳児

担任：朝倉・酒師

養護	「自分で」という気持ちを十分に受けとめ、見守りながら、うまくいかないところは手伝ったり、丁寧に仕方を伝えながら子どもの意欲を引き出すようにした。
教育	<p>【健康】</p> <ul style="list-style-type: none">・排泄は個々の排尿間隔を把握したうえで、家庭と連携をとりながら布パンツへの移行を進めた。尿意を伝えられた時やトイレで排尿したときに褒めて認めることにより、トイレで排尿するようにした。・午睡は落ち着いた環境の中で、保育者が寄り添ったりすることで安心して一定時間眠る。・着脱は自分でやってみようという気持ちが出てきて、保育者に手伝ってもらったり友達の真似をしながら意欲的に取り組んでいた。広くゆったりとした環境の中で行えるようもっと工夫するべきであった。・運動面は安全な環境の中、走る、跳ぶ、くぐる等の全身運動を行い、身体を動かす遊びを十分に楽しむ。また、好きな玩具で遊んだり、保育者・友達と一緒にごっこ遊び、模倣遊びを楽しむ中で個々や集団での遊びの広がりが見られる。 <p>【人間関係】</p> <p>友達と玩具の取り合いでトラブルになりながらも、「かして」「いいよ」のやりとりや順番を少しずつ覚え、他児との関わりを楽しむ。自己主張からの叩く、噛みつくという場面も多く見られたが、保育者が仲立ちとなり落ち着いた環境づくりや家庭と連携して子どもとの関わりを十分に行ったことで落ち着いてきた。</p> <p>【環境】</p> <p>自然と多く関わることのできる水元公園での戸外遊びの機会を多くもち、自然物に触れたり、拾ったり、別の遊びに利用したりと探索活動を十分に行った。水、砂など様々な感触を楽しみ、遊ぶことによって興味を広げるようにした。2歳児クラスと連携を取り、室内環境を整えることで異年齢との遊びやイメージを広げるようにした。</p> <p>【言葉】</p> <p>単語や身振り、指差しにより、保育者や友達に自分の思いを伝えようとする姿から単語が増え、二語文、多語文が見られるようになる。絵本や歌を通して伝える、伝わる楽しさを感じるようにした。</p>

	<p>【表現】</p> <p>保育者や友達と一緒に歌ったり、手遊びをしたり、リズム遊びを十分に楽しむ。また、クレヨンによるぬたくりや粘土遊びの中で描いたり、感触を楽しむようにした。</p>
食育	<p>保育者や友達と一緒に食べる中で、正しいスプーン、フォークの持ち方や食事のマナーを伝え、少しずつ個々が意識できるようにした。また、食育活動を通して食材に興味を示し、食べる意欲につなげるようにした。</p>

2歳児

担任：森・平野

養護	<p>生活の中である程度の見通しを持って活動しようとするようになってきた。</p> <p>また、身の回りの事を自分で行おうとするが、個々に応じて言葉掛けを必要とする時もある。</p> <p>さまざまな欲求や思いを受けとめて、安心出来る環境の中で健康的に保育者に親しみを持って生活した。</p>
教育	<p>【健康】</p> <p>着脱は見守ったり、言葉掛けを行いながら衣服の前後、左右、裏表を意識して行い、脱いだ服をたたみ、始末をするようになる。スナップボタンはほぼ全員が自分で行うが、上着のファスナーは介助を必要とする。</p> <p>排泄は尿意を感じたら、その旨を保育者に告げてトイレに行き、排泄する。後始末も自分で行うが、確認は保育者が行う。排便後の始末は介助を必要とする子どもが多い。</p> <p>午睡は一人で布団に入り入眠するが、入眠するまでに個人差がある。</p> <p>運動面は、戸外・室内遊びを通して、歩く・走る・跳ぶ・まわるなどの基本的全身運動が出来るようになった。指先を使った遊びを継続して行うことにより、手先を使う細かい活動を楽しんで行う。</p> <p>【人間関係】</p> <p>簡単な約束事を知って、気の合う友達と関わって遊ぼうとする。</p> <p>また、ごっこ遊びを楽しみ、役になりきって遊ぶ中で、少しずつ遊びが広がっていった。</p> <p>【環境】</p> <p>公園での探索遊びを行うことにより、身近な動植物に触れ、親しみを持って遊ぶ。</p> <p>生活や遊びの中で、色・数・形に興味を持つ。しかし、個人差が見られるため、子どもたちが興味を持って理解するように、引き続き生活や遊びの中で取り入れる必要がある。</p> <p>【言葉】</p> <p>自分のものと他人のものとの区別をするようになり、「貸して」などのやりとりをする。</p> <p>自分の思ったことや疑問に思ったことなどを言葉で伝えようとするが、口調が乱れたりする姿も見られる。</p> <p>絵本や紙芝居は集中して楽しむ。</p>

	<p>【表現】</p> <p>音楽に親しみ、リズム遊び、歌・手遊びなどを通して、友達と一緒にうたったり、表現することを楽しむ。製作は、さまざまな素材をのり・ハサミなどを使って切ったり、貼ったりして行うが、ハサミがまだ十分に使えていないため、引き続き経験していく必要がある。</p>
食育	<p>調理保育を通して、食材の名前にも興味を持つ。食事の時に自分たちが調理したものを見つけると意識して食べようとしたり、楽しく話をしながら食べる。また、自宅においても保育園で行った調理保育をやりたいという声が聞かれたと保護者からの報告もある。</p>

3 歳児

担任：外山

養 護	保育者との信頼関係を築き、個々の欲求を受け止めながら、安心した生活を送れるようにすると共に、少しずつ自分の思いを伝え、また相手の気持ちを理解するようになる。
教 育	<p>【健康】 身の回りの事は自分で行き、物に対する扱いや管理も自分たちで行えるようになる。見守られながら、着脱・排泄・食事・衛生面など何でもやろうとする気持ちが芽生える。戸外から戻ると、進んで手洗い・うがいを行的衛生的にしようとする習慣が身に付いた。食事では、食器の並べ方から持ち方・姿勢・三角食べまで、様々なマナーについて知り、自分から気をつけるようになってきた。天気の良い日は、必ず戸外で体を動かすように配慮し、探索や集団での遊びを楽しみながら、簡単なルールや約束事を伝えていった。</p> <p>【人間関係】 個々の遊びから、友達との関わりが増え、共通の話題を持って楽しめるようになる。その中で、玩具や場所の取り合いも多く気持ちのぶつけ合いをする事で、互いの気持ちを分かろうとするようになる。楽しく遊ぶために、遊びの中でも約束事がある事をその都度伝えていくようにした。</p> <p>【環境】 季節感を味わう事を大切にして、植物や虫・木の実などに触れたり空や雲を見たり、探索する中で興味を持った事に共感し、一緒に調べたりした。また、自然物を使った製作を行い、保育室に飾ることによって自分たちで見つけた物を使うことで、作る喜びをより感じる事が出来た。身近な物に触れ、物の形や・色・大きさ・数にも興味が湧き、会話の中に出てくるようになった。また、それぞれに遊びを見つけ、集中出来るように環境設定を行い、遊びを通してルールや順番がある事を伝えた。</p> <p>【言葉】 挨拶することでコミュニケーションがとれ、次第に会話が楽しめるようになり、友達に話しかけることも多くなる。自分だけではなく、相手の言葉にも耳を傾けるようになり、会話を自然に行う。絵本や紙芝居などを喜んで見たり聞いたりして言葉を真似して楽しんでいる。</p>

	<p>【表現】</p> <p>体操や手遊び・言葉遊びを友達と行い、リズムに合わせる楽しさを知らせた。楽器を使い、様々な音の違いを体験する。製作は指先をしっかりと動かし、のりやハサミ・絵具・クレヨン・紙などの使い方を知らせながら、慣れるよう見守っていった。気に入った物語を遊びに取り入れ、役になりきってごっこ遊びを楽しみ、遊びが広がるように声掛けをした。</p>
食育	<p>友達や保育者と一緒に、楽しい食事となるよう配慮した。食材の名前を知り、実際に触れて感触を確かめることで興味を持ち、また畑活動を通して自分で収穫したことにより、苦手な物を食べようとするようになった。食事に対してより興味を持ち、楽しんで食べられるようになる。</p>

4 歳児

担任：大川

養 護	室内の温度、湿度、換気、採光等に十分注意し、生活や活動しやすい環境構成を心がけた。また、保育上の安全、清潔にも気を配るようにした。一人一人の気持ちを理解し受け止めて、心身の成長を援助するとともに、自意識の芽生えを見守りこれからも楽しく生活が出来るように心がけていく。
教 育	<p>【健康】 自分でできることに自信を持ちながら、生活に必要な基本的な習慣を行うようになってきた。活動や気候に合わせて衣服の調節を行ったり、手洗い、うがいの励行など清潔面も意識する姿が見られた。集団遊びやルールのある遊びを取り入れることで集団を意識し、様々な運動用具にも積極的に興味をもって行ったり、年長児を見て意識を持って取り組む姿が見られた。</p> <p>【人間関係】 保育者や友だちとのつながりを広げていく中で、決まりの大切さに気づき守ろうとする意識が見られるようになってきた。仲間といることの喜びや楽しさが感じられる反面、競争心が起きトラブルも多く見られたが、互いの気持ちを代弁したり、間に入って見守ることで、自分たちで話し合い解決するようになってきた。相手の言うことや考えていることを理解しようとするが、自己主張が強く自分の気持ちを抑えたり、我慢が出来ない場面も見られ、必要に応じて言葉かけを行った。異年齢とのかかわりから親しみをもったり、年長児の行うことに興味を持って真似をしたりと、積極的に遊ぶ姿が見られた。</p> <p>【環境】 園内外の行事に期待感をもち楽しんで参加したり、園外活動の際には、季節の変化が感じられるよう自然を見たり、触れたり、特性を知ること、興味関心を持ち、友だちとの会話を弾ませる姿が見られた。また、畑活動、チューリップの栽培、ポニー教室等、身近な動植物の世話をを行うと同時に生命の大切さを感じとる。生活や遊びの中で、数や文字に対する関心も深まり、当番活動等を積極的に行う姿も見られる。</p> <p>【言語】 進級当初は、朝の挨拶をしっかりと行うことから始めることで、日常生活に必要な挨拶が身につき、話しかけられたり、問いかけに対して、自分なりに言</p>

	<p>葉で返事をしたり会話を楽しむようになる。また、疑問に思ったことを尋ねたりする姿が多く見られるようになる。絵本や紙芝居は集中して見ているとともに感想を伝えたり、イメージを伝えあって楽しんでいる。日常の言葉使いや話の内容理解は、個々に応じた説明を行う必要がある。</p> <p>【表現】</p> <p>ピアノやリズムに合わせて体を動かしたり楽器を鳴らすことで、音に興味をもち、友だちと楽器を持ちいって楽しむ姿が見られた。歌の指導では歌詞の内容を理解しやすいよう伝えることで、動や静を楽しみながら歌う様子が見られた。絵画製作では、イメージを大切に、個々やみんなで達成感を味わえるよう個々の対応を心がけ、丁寧に最後まで仕上げる気持ちを育んでいった。また、作ったものを用いて遊んだり、飾ったりすることを楽しむ様子も見られた。発表会では、自分で動きや言葉を考えたり、大、小道具と一緒に作ることでイメージの共有や友だち同士の励ましが見られ楽しみながら行い、年少児を誘って遊びへと発展していった。</p>
<p>食 育</p>	<p>三色群活動、調理保育、行事食に期待感をもち喜んで参加することで、食に対する興味、関心が見られ特性を知ることにも意識が高まった。食事では一定時間内に終えようと意識をしたり、苦手なものでも自分から食べようとするが、食事のマナー、箸の使い方は個々の状態に応じて言葉かけを行っている。</p>

5 歳児

担任：小林 照行

養 護	子ども一人一人の気持ちや考えを受け止め、毎日楽しく安心感を持って様々な活動に参加できるように努めた。生活環境を整え、安全で快適な生活が送れることに留意し、心身共に健康的に過ごせるようにした。
教 育	<p>【健康】 基本的な生活習慣が身に付き、生活リズムも整い自立した生活を送れるようになり、健康面や衛生面で必要な習慣も自ら進んで行えるようになった。 運動面は、縄跳びや竹馬などの種目においては大きな差ができてしまったため、もう少し配慮などをする必要があった。伸び伸びと運動をし、身体を動かすことの楽しさは、クラスの子どもたち全員が感じていた。</p> <p>【人間関係】 協調性を大切にして、活動に取り組む姿勢を伝えた。年度初めは、皆で協力するよりも、個々や小さい集団で活動する姿が目立ちトラブルも多々あったが、日々の生活、夏合宿、運動会、雪合宿と様々な経験をする中で、友だち同士での関わりも深まり、協調性を持ち取り組めるようになった。異年齢児に対して優しさを持ち、友だちを認め合ったり助け合ったりする姿も多く見られた。</p> <p>【環境】 年間を通しての戸外活動や散歩で季節の移り変わりを自然の様子や事象から感じるとともに、ひとつひとつの自然物に深く関心を持ち、探求しようとした。また、行事についての由来を考えたり、経験することで内容を知り得ることもできた。毎月のゴミ拾い活動を行ったことで、美化意識やマナーも学び、落ちていたゴミを自ら進んで拾うようになった。</p> <p>【言葉】 年間を通して絵本や紙芝居に多くふれ、見たり聞いたり自ら読んだりすることでイメージを広げ、想像力を持つことができるようになった。 自分の考えや思いを分かりやすく言葉にして友だちに伝え、相手の話も理解しながら聞くことができた。また、早口ことばやカルタ作りなど文字遊びに興味を持つ園児もいた。 文字に対する関心は高く、十分に理解し書くことを楽しむ子どもたちが多くいたが、全員が文字に対する意識を持つように、日常多く目にするものやプリントなどを用いて行った。</p> <p>【表現】</p>

	<p>一人一人の個性を尊重し、自由な表現を引き出せるように努め、友だちと一緒に楽しみながら表現活動を進め、発表会の劇では、自分たちで台詞や動作を考え作りあげる喜びを感じるようにした。</p> <p>絵画では自信を持ち取り組む子どもたちが多く見られた反面、自信を持っていない子どもは他児の描いている様子を気にしてしまう、他児の絵を模倣して描いてしまう姿も見られた。ぬり絵や製作活動は、細かい部分まで丁寧に行う意識が強くなった。</p> <p>音楽表現は、歌うことを楽しみ、楽器は音色に親しみ扱い方も理解しようとしていた。</p>
食育	<p>毎月の調理保育で、包丁の使い方や食材の切り方を学び、畑や米活動を通して育てることの難しさや食材に感謝する気持ちを知ることができ、食材に多く触れることができた。三色群やバランスガイドでは、食物の栄養などについても深く学ぶことができた。</p>

保健事業報告

【児童の健康診断について】

乳児健診、全園児健診ともに、基本的には第3木曜日で行われた。

【健康状態の観察】

保健部会、朝礼、終礼を通して、朝の視診、受入について職員間で統一出来た。

【投薬について】

塗り薬は、与薬依頼書を受けて処置を行う予定であったが、22年度は急性・慢性の症状に対しての依頼がそれぞれあり、書類提出・軟膏の預かりについて理解していただいたうえでの対応を行なった。

【症状の対応・事故防止のための取組み】

年間の保健部会時に、治癒証明書・通知書・登園届けについて、外傷・打撲について、ケイレン時の対応・誤飲・口腔内の怪我について、骨折・火傷について、知識の確認を行った。

【虐待などへの対応】

平成22年度には、身体的虐待の報告確認はなかった。

その他、性的・心理的・ネグレクトといった虐待もあるために気づきにくく発見しづらい問題でもあるためにポイントに沿って、平成23年度も観察を続けていく。

(保護者の観察も重要になる為に、保育士との情報交換をしていく)

【疾病への対応】

保護者会や保健だより等で、緊急の際の連絡先の確認について発信していたために、連絡についてはスムーズに行えた。

【怪我の対応】

21年度より擦り傷等は湿潤療法にて行う。

【保健部会】

日 時 毎週水曜日 (13時30分～14時15分)

参加者 乳児、幼児各担任、看護師、栄養士

※参加の出来なかった職員に関しては職員会議でフィードバックする。

目的 主に、看護師と保育士の保健に関して。

各月の病欠・子どもの健康面・保健指導・保健連絡の場として活用できた。

引続き内容を検討し、充実させていきたい。

【保健指導について】

◎園児対応

指導として、歯磨き・風邪予防（手洗い、うがい）・咀嚼について行った。

歯磨きに関しては、春・秋の定期歯科健診の結果から、口腔内清掃状態の不良の子どもの増加を止めるための取組みとして1歳児からの歯磨き実施、繰り返し定期的な指導に加えて、幼児クラスでは食後に3クラス合同の「3分歯磨き」を担当中心に行なった。

いずれの指導に関しても、紙芝居を使ったりして子どもにわかりやすい内容を心がけ保育士とともに指導していった。

◎職員対応

【症状の対応・事故防止のための取組み】でも挙げたように、年間の保健部会時に治癒証明書・通知書・登園届けについて、外傷・打撲について、ケイレン時の対応・誤飲・口腔内の怪我について、骨折・火傷について知識の提供を行った。

また、各病気に関して、ヘルニア・いちご状血管腫・プール熱・手足口病・ヘルパンギーナ・蕁麻疹・アトピー性皮膚炎・喘息・斜視・RSウイルス感染症・その時々のある、子どもに起こった病気についての知識をその月内で行えるように継続していきたい。

【身体測定の結果について】

個人表での、結果報告を行ない、年度末には年間差を報告した。